

第3回震災遺構検討会議（旧門脇小学校校舎） 概要

日 時：平成28年11月29日（火） 午後6時～午後8時

会 場：石巻市役所4階 庁議室

概 要：

- (1) これまでの「震災遺構検討会議（旧門脇小学校校舎）」の振り返りについて
 - ・第1、2回「震災遺構検討会議（旧門脇小学校校舎）」で出された意見等について確認した。
- (2) 震災遺構（旧門脇小学校校舎）の整備に関する協議について
 - ・震災遺構（旧門脇小学校校舎）の整備に関して、主に「規模・範囲」「新しい施設の提案」「既存施設の活用」「南浜地区との連携」「他施設との連携」について意見を交換した。
- (3) 東北大学建築空間学研究室「石巻震災伝承・遺構デザイン検討資料」について
 - ・東北大学建築空間学研究室「石巻震災伝承・遺構デザイン検討資料」の説明を受けて、意見を交換した。

会議での主な意見

- ・校舎正面の痕跡が風化しているため、痕跡を復元するのか共通認識を持って議論する。
- ・5年後には新しい技術が出来る可能性があるため、急いで壊さずに話し合いを続ける。
- ・敷地の東側と西側に高木を植えることで、地域住民の中で見たくないという方々に対して配慮する。
- ・震災遺構になるのだから周囲の賛成が必要である。そのため住民の迷惑にならないよう、敷地の除草などの管理が必要である。
- ・津波が到達した場所と火災があった場所を残す。
- ・1階、2階、3階の被災状況や津波と津波火災の様子が著しく異なるため、1階から3階までの被災の様子を残す。
- ・ただ、被災した状況のものを見るだけでなく、説明するための施設を設ける。
- ・旧門脇小学校校舎と資料館を併設し、写真と映像を合わせた資料として後世に残す。
- ・過疎になった地域の活性化を考えると、学校、保育所、教育施設を戻すことが必要である。
- ・子供たちが集まる施設として、特別教室を活用する。
- ・体育館を地域交流エリアとしてではなく、伝承のための映像ルームとして利用する。
- ・体育館の耐震補強問題について、今後、長期間使うのであれば耐震度を加味した改修が必要な状況と考える。
- ・校舎裏をつたって逃げた所は大事な場所のため、校舎裏の導線について「残す」「残さない」を議論する。
- ・旧門脇小学校について伝承していくには地域の方々の力が必要なため、特別教室、校庭、体育館は地域の活動の場とする。
- ・旧門脇小学校の伝統や歴史を見てもらう。
- ・復興祈念公園と旧門脇小学校と地域をセットにして考えて繋げていく。
- ・日和山両側の新しい見晴らし場を配慮する。
- ・地域の方々に迷惑をかけないように、駐車場の導線を考慮する。
- ・中からと外からの見せ方を決める。
- ・予算を考慮して今後話をする。